

は し が き

自分の言いたいことを英語で自由に発信したい。そんな思いを実現させるために、このテキストは作られました。いきなり英会話では難しいでしょう。でも、まず自分の考えを文字で書いてみると、けっこう通じる英語が書けるものです。その練習をくり返すうちに、自分を英語で表現する力がついて、やがて「書く」から「話す」へとコミュニケーションの力が飛躍することでしょう。

本書の特徴は次の3点です。

1. 身近なトピック中心の自己発信型英作文

自己紹介、コンパ、ゼミ、大学祭など、学生のだれもが経験するトピックを中心にすえて各課を構成しました。それに電話、海外旅行、インターネットなどで必須の表現練習を加えています。また、環境保護、教育問題、戦争と平和などの知的な内容に関する表現力を養うレッスンも盛り込みました。これらを通じて、自分の考えを易しい英語で堂々と世界に発信する楽しさを味わってください。

2. CDでヒアリング、それを使ってライティング

各課のはじめには長めの文章や会話が用意され、ネイティブの吹き込みによるCDが付けられています。CDを何度も聴きながら生きた表現を覚え、それを活用して練習問題を解くという画期的な構成です。「聴く力」をつけながら「書く力」を養う。そうなれば、「話す力」への準備も万全というわけです。また練習問題は、穴埋め、並べ替えなどの易しい問題から、各トピックに関する自由英作文まで、多様な学力の学習者に見合った段階的な構成になっています。

3. 充実した基本表現と文法解説で、英作アレルギーを克服

WORD BANKで基本表現を豊富に与え、モデル英文の重要事項には詳しい文法解説を付けました。英作のコツを伝授する *WRITING CLINIC* や、一読三嘆の名人伝説「*WRITING*の鉄人」も楽しく学習をサポートします。こうして、英語の基礎を固めながら苦手意識を克服し、体系的な学習ができるように構成されています。

このような類書にない特徴を持った本書を活用して、自分を英語で表現し、世界の人々とコミュニケーションできる喜びを体験してください。

最後に、この本の完成までには、英文の校閲で Deborah Iwabuchi 先生にたいへんお世話になりました。また、金星堂の嶋田和成氏には、たえず適切な助言と激励をいただきました。心からお礼を申し上げます。

2000年1月 著者しるす

Table of Contents

LESSON 1 Page 6

Self Introduction (自己紹介)

1. 「～すべきだ」(should+原形), 「～しておけばよかったのに」(should have+過去分詞)の表現
2. 英語のことわざ

WRITING CLINIC 1 ライティングからスピーチへ

LESSON 2 Page 10

College Life (大学生活)

1. needless to say (言うまでもなく), sad to say (残念ながら)などの不定詞の慣用表現 (=独立不定詞)
2. どれほど～でも However～+主語+(may) be

WRITING CLINIC 2 和製英語にご用心!

LESSON 3 Page 14

Club Activities (クラブ活動)

1. 「思う」のさまざまな表現 guess, be going to, hope, be afraidなど
2. 「～してごらん, そうすれば」の表現 命令文+and...

WRITING CLINIC 3 なんでも英語にしてみよう

LESSON 4 Page 18

A Party (コンパ)

1. 「とても～なので, …だ」の表現 so～that...
2. 「とても～なので, …できない」の表現 too～+to+原形

WRITINGの鉄人 1 斎藤秀三郎

LESSON 5 Page 22

Cross-cultural Understanding (異文化理解)

1. 「できるだけ～する」の表現 as+形容詞/副詞の原級+as+possible
2. 「なんと～なのだろう」という強い驚きの表現 (感嘆文)

WRITING CLINIC 4 冠詞のa (an) とtheにご用心

LESSON 6 Page 26

Seminar (ゼミ)

1. 関係代名詞 that, who, whose, whom, whichなど
2. 関係副詞 where, when, whyなど

WRITING CLINIC 5 名詞の単数形と複数形にご用心

LESSON 7 Page 30

Environmental Protection (環境保護)

1. 形式主語構文 It is ~(for...)+原形
2. 現在完了形 have (has)+過去分詞

WRITING CLINIC 6 機械的な直訳ではなく, 状況判断を

LESSON 8 Page 34

Telephone (電話)

1. 電話の決まりことば
2. 「～はどうですか」と提案・助言する表現 Why don't you+原形

WRITINGの鉄人 2 伊地知純正

LESSON 9 Page 38

Driver-oriented Society (クルマ社会)

1. 分数や倍数の表現
2. 「～もの」(as many as～), 「せいぜい～」(no more than～)などの数量を強調する表現

WRITING CLINIC 7 「の」はofとは限らない

LESSON 10 *Page 42*

A College Festival (大学祭)

1. 動名詞 (～ing形)
 2. 日本の食事や生活に関する英語
- WRITING CLINIC 8** 英文で手紙を書くときの注意

LESSON 11 *Page 46*

Travel Abroad (海外旅行)

1. 「何とおっしゃいましたか」と聞き返す表現 I beg your pardon?
 2. 「～していませんね」 付加疑問の表現
- WRITING CLINIC 9** ライティングにもリズム感が大切

LESSON 12 *Page 50*

Education (教育問題)

1. 分詞構文
 2. 倒置
- WRITING**の鉄人 3 勝俣銓吉郎

LESSON 13 *Page 54*

Homestay (ホームステイ)

1. on ～ing 時を表す慣用表現 「～するとすぐ」
 2. 比較構文 「～すればするほど、ますます…」 the+比較級, the+比較級
- WRITING CLINIC 10** 贅肉を落とすてスッキリと

LESSON 14 *Page 58*

Study Abroad (留学)

1. 比較級と最上級
 2. though～ 「～ではあるけれども」「～にもかかわらず」(譲歩の表現)
- WRITING CLINIC 11** 文前後の情報の流れを整理しよう

LESSON 15 *Page 62*

War and Peace (戦争と平和)

1. 不定詞 (to+動詞の原形) のさまざまな用法
2. 「Bと同様にAも」 A as well as B～ (同等比較)

WRITING CLINIC 12 名詞中心の英語らしい作文へ

LESSON 16 *Page 66*

Kabuki (歌舞伎)

1. 「今や～だから」 now that～ 「ひとたび～すると」once～ 時・理由の接続詞
2. 「とてもAなのでBする」「BするほどAだ」 A+enough+to B

WRITING CLINIC 13 日本詩歌の英訳

LESSON 17 *Page 70*

Internet (インターネット)

1. 形式主語構文 (It is～that+S+V) 「Sが…することは～だ」
 2. コンピュータやインターネットの英語
- WRITING CLINIC 14** 英語のていねい表現

LESSON 18 *Page 74*

Looking for a Job (就職活動)

1. 仮定法 as if I were..., I wish I had...
 2. so far as～ 「～する限りでは」 条件や限界を表す表現
- WRITING CLINIC 15** 英文履歴書 (résumé) の書き方

LESSON 19 *Page 78*

Learning (学問)

1. 強調構文 It is A that B 「BなのはAだ」とAを強調する表現
 2. 数量の表現 (a) little, (a) few, many, muchなど
- WRITING**の鉄人 4 入江祝衛

LESSON 20 *Page 82*

A Graduation Thesis (卒業論文)

1. 形式目的語の it
 2. 群動詞 carry out, call forなど
- WRITING CLINIC 16** 技術英語論文の書き方

Self Introduction

—自己紹介

WARM-UP READING

日本語を参考に、CDを聴いて（ ）内に適切な語を入れなさい。

CD TRACK 1

Fellow students! Let me (1) _____) myself. My name is Sato Keiko and I come from Sakai, Osaka Prefecture. I (2) _____) from Minami High School but failed last year's college entrance exams. I **should have studied** harder in my high school days. I chose this university because I like the school atmosphere. I'm very happy to be with you here.

My (3) _____) is playing the electric guitar and I hope I can take part in the popular music (4) _____. Someday I hope to perform rock and roll on the stage with my boyfriend. That's my dream. My father, however, is always complaining that I **should not be** so crazy about music but (5) _____) my attention on my studies. Since I am no longer a child, I **ought to be** responsible for what I do. Gather roses while you may. Everything's coming up roses. Thank you very much for your attention.



みなさん。自己紹介いたします。名前は佐藤恵子です。大阪の堺市出身です。南高校を卒業したのですが、一浪してしまいました。高校時代にもっと勉強しておけばよかったです。校風が気に入ったのでこの大学を選びました。みなさんと一緒になれてとてもうれしいです。

趣味はエレキギターを弾くことで、軽音楽のサークルに入ればいいなと思っています。いつかボーイフレンドと一緒にステージに立ってロックンロールを演奏したいわ。それが夢なの。でも、父はいつも音楽にばかり熱中しないで勉強に集中しなさいってうるさいの。もう子どもじゃないんだから、自分のことには責任をもつわ。「楽しめる間に楽しめ、若い時は二度ない」って言うでしょ。そしていま、何もかもうまくいっているのよ。ご静聴ありがとう。

Notes

「～出身である」 **come from**～ 「一浪する」⇒「昨年の試験に失敗する」(英米の高校生は「浪人」してまで特定の大学をめざすことはほとんどない) 「校風」 **school atmosphere** (長い伝統の末に確立された校風は *school tradition* ともいう) 「～に参加する」 **take part in**～ (=participate in～) 「もう～ではない」 **no longer**～ 「《ことわざ》楽しめる間に楽しめ、若い時は二度ない」 **Gather roses while you may.** (cf. There's no time like the present. 今ほど良いときはない [今しなさい]) 「《口語》(思ったよりずっと) うまくいく」 **come up roses**

GRAMMAR & PHRASES

1. 「～すべきだ」(should+原形), 「～しておけばよかったのに」(should have+過去分詞) の表現

I should not be so crazy about music but [should] concentrate my attention on my studies.
(音楽にばかり熱中しないで勉強に集中すべきだ)

I should have studied harder in my high school days.
(高校時代にもっと勉強しておけばよかった [のになかった])

- ▶ 「～すべき」はought to+原形, 「～しておけばよかった」はought to have+過去分詞でも表現できる。また, 「～すべきではなかったのに (してしまった)」はshould not have+過去分詞, またはought not to have+過去分詞。

(a) *I ought to (= should) be responsible for what I do.*
(自分のすることには責任をもつべきだ)

(b) *He was late for the exam. He should (= ought to) have left home earlier.*
(彼は試験に遅刻した。もっと早く家を出ておけばよかったのに)

(c) *I should not (= ought not to) have eaten between meals.*
(間食をすべきではなかったのに)

2. 英語のことわざ

Gather roses while you may. (楽しめる間に楽しみ, 若い時は二度ない)

- ▶ スピーチでは適度にことわざを入れるのが効果的だ (✍ WRITING CLINIC 1 参照)。日本のことわざと比較対照すると, それぞれのお国柄が出ておもしろい。

(a) *Where there's a will, there's a way.*
(意志 [やる気] があれば, 必ず方法は見つかる) [日本では「精神一到何ごとかならざらん」]

(b) *A rolling stone gathers no moss.*
(ころがる石には苔がはえない) [意味は「職業を変えてばかりいる人には金は貯まらない」, 「たえず恋人を換える人には本当の愛は得られない」など。ただし、アメリカでは「たえず活動している人はいつも清新だ」と良い意味でも用いる。]

WORD BANK

「国立(公立/私立)大学」 **a national (public/private) university** 「短期大学」 **a junior college**
「(大学の)1年生」 **freshman** (またはfresher), 「2年生」 **sophomore**, 「3年生」 **junior**, 「4年生」
senior 「経済学部」 **faculty of economics** 「教育」 **education** 「工学」 **engineering** 「前(後)期」 **the first (/second) semester** 「科目を履修する」 **take (/study) a subject**

EXERCISES

A 日本語に合うように、() 内に適切な英語を 1 語ずつ入れなさい。

1. 約束は守るべきだ。

You () () your promise.

2. 僕らの大学にだって欠点はある。そんなささいなことで不平を言うべきではない。

Even our () has some defects. You () not () of such a trifle.

3. その本を買っておけばよかったのに。

You () () () the book.

4. 理科と数学の両方に興味を持っておくべきだった。

I () to () been interested () both science and math.

5. レポートを仕上げていて当然のはずだ。一か月も前に出したのだから。

You () () () finished the report, for I assigned it to you one month ago.

B 日本語の意味になるように、() 内の英語を並べかえなさい。

1. 彼女は何回かこの大学に来たのだから、道に迷ったはずがない。

She (way / lost / her / have / can't), for she (several times / has / to this university / come).

2. 本を借りる人は、1 度に 5 冊以上の館外持ち出しは許されません。

Borrowers (the library / more than / of / may not / five books / take out) at a time.

3. 彼は辞書を教室に忘れてきたかもしれないと言った。

He said (his dictionary / have / he / the classroom / might / in / left).

4. 困っているときの友は、真の友である。 [困っているとき=必要なとき]

(need / is / indeed / a friend / in / a friend).

5. よく学びよく遊べ。 [勉強ばかりして遊ばないとジャックはだめな子になる]

(dull / Jack / a / no play / all work / and / make / boy).

WRITING FOR COMMUNICATION

A 下線部を英語に直しなさい。

A: ①初めまして。中村洋子と申します。経済学部の1年生です。よろしく申し上げます。

B: こちらこそよろしく。②僕は教育学部の3年生で、数学専攻です。

A: ③前期はどんな科目を履修すべきなんですか。

B: ④まず語学2つと、必修科目を優先すべきだよ。ところで、⑤この大学の校風は気に入った？

A: はい。⑥友だちをたくさん作って、楽しめる間に楽しもうと思います。

①

②

③

④

⑤

⑥

B 英語で自己紹介をしてみよう。

WRITING CLINIC 1 ライティングからスピーチへ

自己紹介を手はじめに、自分の言いたいことを英語でスピーチしてみよう。そのためには、次の点に注意しよう。

①原稿ははじめから英語で書こう。

英語の発想が大切。「ええ、本日はお日柄もよく」なんて無意味なマクラは英語では不要。ずばり、言いたいことに切り込もう。

②1分間に120語を目安に、やさしい英語で。アナウンサーの速度は毎分約180語。でも初心者はその3分の2の速度で十分だ。要は、言いたいことをしっかり伝えること。

③大きな声で、はっきり発音する練習を。モジモジしては立派な内容でも台なしだ。

④威風堂々。下を見ず、視線は聴衆の左・中・右にまんべんなくゆっくり移そう。

⑤気のきいたことわざや、軽いユーモアをまじえよう。

⑥最後の言葉はしっかり締めよう。これがあとに余韻を残す。That's all. (以上です) では締まらない。今回の例文では、ことわざGather roses while you may.を受けて、口語のcome up roses (思ったよりずっとうまくいく) という表現を使っている。2つともroses (バラ) で締めたのも女性らしくおしゃれだ。